

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R2.11.1

No.7

豊岡市のホームページにもアップしています

豊岡市 HP→左中段「⇒教育委員会」→「⇒教育研修センター」からご覧いただけます

「豊岡で育つ、ということ」～共有したい授業づくりのポイント～

10月1日 校内研修担当者研修会

兵庫教育大学大学院勝見健史教授をお招きして標記の研修会を開催しました。コミュニケーションワーキング部会で作成していただいた「めざすコミュニケーション能力と活動例一覧」を自校の研究にどう関連付けるかを探る時間となりました。勝見教授からは「関係づける思考」「つまりいたり、停滞したり、混沌としたりする場面でコミュニケーション力を発揮すること」「対話が活動にならないために異質性を生かすこと」「『ズレ』について思考の仕方や関係づけ方を教師が示すこと」等をご示唆いただきました。

講義の後には個人ワークタイムを取り、参加者は自校の研究とコミュニケーション能力の4つの視点の関連について、考えました。そしてペアワークで他校の先生と、対話を重ねました。コミュニケーション能力を「学習や生活の土台」「学習や生活の基盤となる能力」ととらえ、

『各校の研究と関連付けた取組』『豊岡ならではの取組』を全ての学校で進めていきます。



演劇的手法を取り入れた授業 ～オリジナル短歌と演劇づくり～

日高西中学校1年生で演出家・田野邦彦氏による授業が公開されました。田野先生からは次のような助言をいただきました。

- ◆ペアでの対話の困難さを、別の環境でどう変わっていくかを見取ること。介入せず観察に徹する。ペアの表情と距離感で見る。
- ◆アイデアには関与しない。良い失敗体験をさせるため。ピンチを協働で克服させる。
- ◆コミュニケーション教育ではプロセスで起きていることを見取ることが大事。自分事としているか？夢中になれているか？

これらの指導のポイントを生かしながら、子どもたちのコミュニケーション能力が育成されています。

どちらも「豊岡ならではの取組です」

非認知能力向上事業（2年目）

やり抜く力・自制心・協働性を子どもたちに

1年生ではジェスチャーゲームで、表したいことを演じ、友達に当ててもらいます。注目を浴びて演じ、当ててもらおうと大喜びする姿が印象的でした。

2～3年生ではシーン創作を行います。何をどう表すかグループで次々とアイデアを出し、動いてみてはまた話し合い、ひとつの表現を創り上げます。子どもが考えを出し合い、受け入れ、協働して創り、納得のいくものに仕上げていく姿が見られました。

こうした「プロセス」の中で非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）が発揮・育成されていきます。検証チームとともに、子どもたちの成長を追っていきます。